紙上採録 とき 12／5 ところ 朝日会館5階 会議室

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集

日本赤十字社 愛知県支部 Japanese Red Cross Society

新型コロナウイルス感染症を乗り越えよう

～日本赤十字社 愛知県支部 青少年赤十字 座談会～

変わる生活、変わる意識 コロナ禍を生きる〝わたしたちの今〟

学校が長期にわたって臨時休業になるなど、新型コロナウイルスの感染拡大は、子どもたちにも大きな影響を及ぼしています。いまだ出口が見えない中、子どもたちの身の回りでどのような変化が起きているのでしょうか。この状況をどう受けとめ、何を感じているのでしょうか。日本赤十字社 愛知県支部 青少年赤十字課 係長の辻ノ上実友希さんと同支部主事の佐藤菜津美さんの司会のもと、5人の小・中学生による座談会を開催しました。リアルな声を紹介します。

無言の給食にストレス 食べにくくなった子も

①日常・学校生活で変化したことはありますか?

櫻林 学校行事が中止・短縮され、教室を移動するたびに手洗いが絶対となりました。でも、消毒などを徹底しているので、インフルエンザや風邪で欠席する人は少なくなりました。また買い物や外食など、今まで当たり前と思っていたことが、当たり前でないことにも気づきました。

石本 給食中は、みんな無言。静かすぎる雰囲気がだめで、食べにくくなった子がいます。遠方の祖父母にも、会いに行きづらくなりました。新しい習慣として、感染状況を知るためにニュースを見るようになりました。

林 ソーシャルディスタンスをとるために、傘さし登下校で通学しました。学校では、くしゃみをするだけで冷たい視線を浴びているように感じてしまいます。家では、増えた時間を使ってウイルスについて調べるようになりました。

名古屋市立 鳴子台中学校1年生 平田 萠さん

「自分がその立場だったらと考えて行動する」

津島市立 北小学校6年生 林 絢音さん

「話し合って、不安や差別を減らしたい」

②社会でも、さまざまな変化がありました。緊急事態宣言が出ているときに、県外に移動する人を戒める“自粛警察”に対してはどう思いますか。

平田 「みんながガマンをしているんだから、あなたもそうしろ」と言いたかったのかもしれません。ただ一方的なのはだめ。県外に行かなければいけない事情があるのかもしれないから。

加藤 「こういう時期に来たのも悪いけど、そこまで言わなくてもいいのでは」と思います。確かに感染者が多い地域から来た人が近所にいたら、近づくのは控えるかもしれないです。でも、もう少し相手が傷つかないように、やさしい言葉で言ったり、書いたりしたほうがよかったと思います。

③新型コロナウイルスは「病気」「不安」「差別」という3つの顔を持つと言われています。どのようなつながりがあると思いますか。

加藤 私は病気になった人が差別されて、心が傷つき、心の病気になってしまうと思います。

石本 病気になるのは、差別をしてしまう側だと思います。差別はせめてもの強がりだから心はすでに弱くなっています。そこにコロナのような刺激が入ると気持ちは沈んで病気にかかりやすくなってしまうからです。

櫻林 感染者が増えると、自分も家族も感染するかもと不安になります。するとコロナにかかった人とは関わりたくないと思い差別が生まれます。体調が悪くなっても病院や保健室に行けなくなるため、病気が悪化するのだと思います。

④もし自分が学校で熱っぽくて咳が出たら、すぐに保健室に行きますか。また、調子の悪そうな人がそばにいたらどうしますか。

平田 行きます。教室に残って周りに感染させてしまうと、もっと大変だから。「コロナじゃないの?」と言われても、「検査をしなければわからない」と反論します。

林 私も行きます。コロナを疑われるより、人に感染させるほうが心配。クラスに具合が悪そうな子がいた場合は、無理に保健室には連れていかない。「あなたは病気だよ」と押しつける感があるので。しばらくそっとしておき、続くようなら連れていきます。

石本 まず、保健室に行きやすい雰囲気づくりが必要だと思います。誰もが不安だから、過剰に反応してしまう。不安を取り除くために話し合って、言葉にしていいことと悪いことを、みんなで話し合わなければいけないと思います。

⑤学校を欠席している生徒やお母さんが看護師をしている生徒に「コロナじゃないのか」とからかう人がいたら、どう対応しますか。

加藤 軽い気持ちで言っていると思うから「言われる人の立場になって考えたほうがいい。あなたが思うより何倍も傷つくよ」と伝えます。相手に嫌な思いをさせてしまったことを、本人に気づかせたいです。

櫻林 「看護師さんがいるから、助かる人がいるんだよ」と話して、言った相手に謝らせたいです。実際に「あいつコロナじゃない?」というウワサ話は聞いたことがあります。

稲沢市立 高御堂小学校6年生 石本 紬さん

「感染を理由に人の接し方を変えない」

平田 私は無理に謝らせても、本当に思っていなければ意味はないと思います。でも相手の気持ちを考えずに話す人にはその場で指摘しないと、この先、傷つけられる人が出てくるかもしれないです。

林 そういう言い方をする人は、はっきりと注意しないと気付かないと思います。「それはいじめだよ」と強い口調で言ったほうがいいです。

“コロナ”とからかう子には「いじめだよ」と注意します

日本赤十字社 愛知県支部 青少年赤十字課 係長 辻ノ上 実友希さん

日本赤十字社 愛知県支部 青少年赤十字課 主事 佐藤 菜津美さん

みんなで意見を出し合い 不安や差別を減らしたい

⑥自分たちはこれから何をすべきですか。

石本 感染を理由に、人の接し方を変えません。いつも平等に接することを心がけます。「病気・不安・差別」の中では病気をゼロにするのは無理。不安と差別なら不安のほうが取り除きやすいからです。だから不安を減らすための話し合いや、温かい雰囲気づくりが大事だと思います。

加藤 感染した人や感染しているかもしれない人には、自分がされて傷つくような行動をしたり、言葉をかけません。

豊田市立 猿投中学校1年生 櫻林 幸子さん

「一人ひとりが思いやりの心をもつことが大切」

櫻林 3つのつながりを断ち切るには、一人ひとりが思いやりの心を持つことが大切だと思います。「自分は感染していない、感染したことがないからいい」ではなく「感染しないためにはどうしたらいいのか」を考えて行動し、周りに広げていきます。

林 誰でもコロナになる可能性はあるから、感染した人とも話し合って、不安や差別を減らすようにしたい。思っていることを伝え合えば、理解が広がると思います。

名古屋市立 苗代小学校5年生 加藤 夕理さん

「自分がされて傷つくことを人にはしない」

平田 「自分がその立場だったら……」と考えます。不安というだけで相手を傷つけたり、避けたりしません。今日のような座談会を学校でも開いて、いろいろな人の意見を聞かなければいけないと感じました。

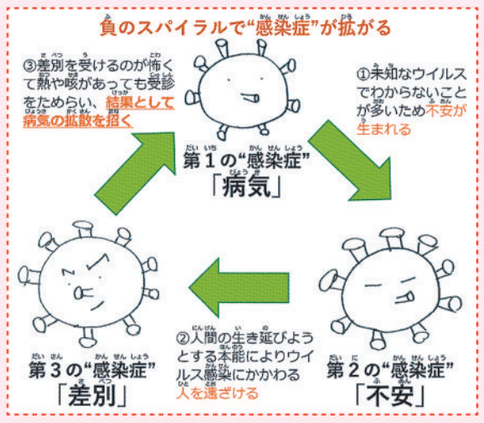
日本赤十字社 愛知県支部 新型コロナウイルス感染症への対応

2020年1月に国内で初めての感染者が確認された新型コロナウイルス。目に見えない小さなその存在は、医療・健康だけでなく経済、教育など様々な分野に想像を超える甚大な影響を及ぼし、私たちの生活を一変させました。いまだ終息の見えないこの状況に対し、赤十字も様々な形で対応しています。

子どもたちに正しい知識をわかりやすく

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!の教材を使った授業の様子

負のスパイラルで“感染症”が拡がる



安心安全な医療を提供し続ける赤十字病院

検温トリアージ用に設置されたドラッシュテント

Withコロナ期の災害に備えて

指定避難所の感染対策のため、マスク、消毒液、ダンボールベッド、パーテーションを整備

赤十字事業は皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

日本赤十字社愛知県支部 名古屋市東区白壁1-50 TEL052-971-1591

皆様のご協力をお願いいたします。

最新情報は 日赤 あいち で検索またはこちらを読取➡

ウェブサイト Twitter ツイッター Instagram インスタグラム